

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：横浜市神戸保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：芹澤 舞子	定員（利用人数）：105名
所在地：〒240-0005 横浜市保土ヶ谷区神戸町104-20	
TEL：045-333-6246	ホームページ：
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：1971年03月25日	
経営法人・設置主体（法人名等）：横浜市	
職員数	常勤職員：18名 非常勤職員：29名
専門職員	（専門職の名称）：名
	保育士：33名
施設・設備 の概要	（居室数）
	0歳児保育室1室
	1歳児保育室1室
	2歳児保育室1室
	3歳児保育室1室
	4歳児保育室1室
	5歳児保育室1室
	（設備等）
	事務所
	給食室
	休憩室
	調乳室
	支援室
	倉庫
	園庭
	屋上

③理念・基本方針

<理念>
子どもたちの健やかな成長と幸せをねがって
～すべての子どもたちが、自分を「かけがえのない存在」と感じ、自信をもって生きていけるように～

<基本方針>
1. 保護者の方と子育てについての応答関係を通して、相互の信頼関係を深め、連携を取り合いながら保育をすすめます
2. 施設開放、育児講座などを通して、子どもたちと地域の方々との交流をはかり、保育士の持っている保育技術を地域に提供します

<保育目標>
げんき！ やるき！ なかよし！

<保育姿勢>

1. 子どもたちが十分に遊ぶことで食事への意欲を高め、身体づくりをすすめます
2. 子どもが自ら遊びだす自発性や『やってみよう!』とする意欲が育つ環境を整えます
3. 子どもの表現（言葉や動作）を受け止め、人とのかかわりを大切にします
4. 畑づくりや散歩を通して自然とのふれあいを大切にします

④施設・事業所の特徴的な取組

- 保土ヶ谷区の育児支援センター園として、園庭を開放し、親子が気軽に集える場所作りを進めています。
- 交流保育、育児講座、育児相談等も実施しています。また、保育士が出張し、保育を提供することもあります。
- 保土ヶ谷区の保育資源ネットワーク事務局園として、地域の保育・教育施設間のつなぎ役を担い、園児交流や区内研修の企画実施や訪問を行い、保育の質の向上に取り組んでいます。
- 応援隊との交流（異世代交流）により地域活性の役目も果たしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年04月16日（契約日） ～ 2022年01月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2016年度）

⑥総評

【横浜市神戸保育園の概要】

●横浜市神戸保育園は、昭和46年3月25日に開園し、相鉄線天王町駅から徒歩7分程度、静かな場所に位置しています。定員は0歳児から5歳児まで合計105名で現在、在席児は112名となっています。保育サービスは、乳児・幼児保育、障害児保育、延長保育を実施しています。園舎は鉄筋2階建てで園庭を有し、園庭にはトイレ、滑り台、砂場、ジャングルジム、鉄棒、花壇があり、保育室前のテラスからはいつでも園庭に出られます。また、園庭の隣には公園があり、適宜公園を利用して子どもたちは2つの遊び場で遊び込めることができ、伸び伸びと楽しむ子どもの姿が見られます。

◇特に評価の高い点

1. 【子どもの育ちと学びを大切にした保育】

●横浜市神戸保育園では、「よこはま☆保育・教育宣言」「よこはまの保育」を拠り所として、日々の保育を行っています。例えば、5歳児では、職員と一緒に「気持ち」について考える時間を作っています。わかりやすいように、「気持ちは何色?」「嬉しいは黄色」「悲しいは青色」と色でイメージできるようにしています。「ありがとう」「一緒に遊ぼう」などを『ふわふわ言葉』、「ダメ」「仲間に入れない」などを『チクチク言葉』とし、言葉の書かれた紙を色の模造紙に貼り、色を介してお互いの気持ちを学び、思いやりとやさしさを育てています。今回の第三者評価で実施した利用者アンケートでは「職員はお子さんを大切にしてくれていますか」という問いに対して97%の保護者が「満足」「概ね満足」と回答しています。

2. 【豊かな食育活動を通して食べる意欲、生きる力への育み】

●横浜市神戸保育園の食育目標は、「食べる意欲を大切に、食の体験を通して生きる力を育てる」としています。0歳児の食育のねらいでは、「保育士の優しい語りかけや介助で安心して授乳や食事をする」とし、年長児の食育は、「食べ物と身体との関係に関心を持ち、食事や健康の大切さを知る」です。食育計画に沿って食育活動を実施し、栽培体験を取り入れ、土作りから、種まき・苗植え、季節の野菜の収穫まで、自然と触れな

から食につながる豊かな体験を提供しています。食材に触れ、3色食品群表により栄養バランスを理解する取り組みを行っています。また、「ぱくぱくだより」を活用して食について関心を深める活動や、「しょくいくレター」を毎月配付し、家庭への食育にも力を入れています。おいしい食事と食育活動に取り組む職員の熱意が、子どもたちの未来を生き抜く力を育んでいます。

3. 【地域との交流・地域貢献の推進】

●地域交流として、保土ケ谷区の応援隊事業を利用し、世代間交流（グランドゴルフやお話会、正月遊びの会等）を楽しんでいます。また、幼保小教育交流事業として小学生との交流、小学校見学を行い、ボランティア、実習生、中学校職業体験の受け入れも実施しています。保護者・地域に対する子育て支援としては、園だよりの配付、育児相談、園庭開放、交流保育、育児講座、地域向け施設開放（子育てサロン）等を実施しています。他、地域貢献活動に力を入れ、1つ目は、育児支援センター園としての活動で、育児支援専任保育士が在席し、育児支援年間計画を作成して支援しています。また、子育て支援連絡会に参加し、協力して地域の課題解決に取り組んでいます。園では、定期的に子育てサロン（ハーモニー）に保育室を提供し、地域の親子交流、コミュニティの活性化に役立っています。さらに、AEDやオストメイト機能のトイレを備え、地域での活用も可能としています。2つ目には、保土ケ谷区の保育資源ネットワーク事務局園としての活動です。ネットワーク専任保育士が常駐しており、区内の保育・教育施設が連携し「保育の質及び専門性の向上」「地域の子育て支援の充実」「保育のセーフティーネットの構築」「地域の保育・教育施設の連携の推進を図ること」を目的として、地域に多大に貢献しています。

◇改善を求められる点

1. 【中長期的なビジョン・計画の明確化と解決・改善に向けた取り組み】

●家庭との緊密な連携方法について、横浜市神戸保育園では家庭との情報共有は、個別の連絡帳（乳児）や、保育状況ドキュメンテーション記録の掲示等、可視化して情報を提供し、送迎時にはコミュニケーションを日々大切に積み重ね、信頼関係を築くよう努めています。しかし、保護者アンケートから見られる、保護者との情報共有が十分な満足には至っていません。連絡帳、ドキュメンテーション掲示、送迎時の声かけ等のさらなる改善とICT化の取り組み等、別角度からの展開も進むと良いと思います。次に、神戸保育園の中・長期計画の策定に当たり考慮することとして、横浜市の施策方針に呼応して神戸保育園独自の諸問題を計画的に解決する具体的な方策を策定することです。従って、これまでに把握されている神戸保育園の事業経営上の課題、苦慮している事項や今回の第三者評価で気づいた課題等について、今年度対応できる事項、中・長期的に取り組むべき事項について、分析・細分化して年度ごとに取り組むことができる内容の中・長期計画の策定を期待いたします。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名： 横浜市神戸保育園

<評価（自己評価等）に取り組んだ感想>

新しい評価基準で第三者評価を受審するのは、初めてのことでしたが、日々の保育を客観的に評価していただき、神戸保育園の保育を振り返り、保育の質を高め、より良い保育の提供ができる保育園になりたいという前向きな気持ちで取り組みました。

先ずは、全職員が評価項目一つひとつを自己評価することから始めました。その結果を持ち寄り、保育所の自己評価を決定していく中で、保育内容に関する20項目については、少人数のグループに分かれ、自分たちが行っている保育と照らし合わせながら意見交換をしました。

話し合いの途中経過や最終の自己評価については、全職員で共有し、保育の見直しや共通の理解につながる良い機会となりました。何より、子どもの最善の利益という視点で保育について考えられたことは、職員の意識が高まり、保育の質向上やより良い保育の提供につながる大きな意味がありました。また、高評価をいただいた項目については、職員の自信にもつながりました。

<評価後取り組んだ事として>

1. 保護者アンケートや評価内容について全職員で共有しました。

私たち保育者も人的環境であることを改めて意識して保育を進めて行きます。課題やご指摘いただいた部分については、真摯に受け止め、全職員で確認・共有をして改善して行きます。

今後も保育の質向上と、より良い保育の提供ができるよう、全職員で考え、取り組んで行きます。

第三者評価受審に当たり、ご尽力いただいた評価機関の皆さま、ご多忙にもかかわらず、アンケートにご協力いただいた保護者の皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。今後も、より一層のコミュニケーションと連携を深められるように努めて参ります。

⑧第三者評価結果 別紙2のとおり